

平成23年6月2日

会議録 審査内容

◇会議録

- 1 日 時 平成23年6月2日
開会 14時50分 閉会 15時23分
- 2 場 所 幕別町役場5階会議室
- 3 出席委員 6名
委員長 増田武夫 副委員長 前川雅志
委員 東口隆弘 乾邦廣 谷口和弥 齊藤喜志雄
議長 古川稔
- 4 事務局 局長 米川伸宜 課長 仲上雄治 係長 金田恭之
- 5 傍聴者 小島智恵 岡本眞利子 田口廣之 成田年雄 中橋友子
野原恵子
- 6 審査事件 別紙
- 7 審査結果 別紙

委員長 増田武夫

審査内容

(14:50 開会)

- 委員長（増田武夫） ただいまから、産業建設常任委員会を開会いたします。

これより議事にはいりたいと思います。本日の議題につきましては、先ほどの本会議で、本委員会に付託されました陳情の審査であります。

それでは本委員会に付託されました陳情第6号、「泊原発の防災対策強化と自然エネルギーへの計画的転換等を求める意見書」の提出を求める陳情書を議題といたします。この陳情、今日になって手に入ったという方もおられるかと思えます。そうした点で付託されてすぐの審議ということで、大変な日程設定になってしまったことを、ちょっとお詫びしたいと思いますけれども、読まれたのではないかと思いますので、これより各委員のご意見を伺いたいと思えます。乾委員。

- 委員（乾邦廣） これ、私、初めてみましたので、少し時間をいただきたいと思えます。

- 委員長（増田武夫） はい、若干休憩をしたいと思います。

（暫時休憩）

- 委員長（増田武夫） それでは、再開をいたします。本陳情に対する各委員のご意見をお伺いいたします。谷口委員。

- 委員（谷口和弥） 衆参議長や関係大臣、それとはまた別に北海道知事に対して陳情書が、出されているわけでありましてけれども、今この原発の問題は大変重要な問題である、というふうに考えています。東日本大地震でもって、大量の放射能もれがあった、そんな事件があって今、国中が大きな困難となっている。世界を巻き込んでの困難となっている、というふうに思えます。

陳情事項の原発の安全神話から決別し、安全最優先ということ、

- 委員長（増田武夫） 今、第6号ですので。

- 委員（谷口和弥） すいません。第6号ですね。北海道知事の方ですね。泊原発のプルサーマルの中止や、大間原発の函館までわずか23キロというところにある位置に建設中ということですから、これは道民の関心ごととして、この陳情の願意については深く受け止めたいと考えます。以上です。

- 委員長（増田武夫） ほかにございませんか。前川委員。

- 委員（前川雅志） 今、谷口委員が発言されておりましたが、概ね同じような気持ちでいます。道議会もさ来週から始まるようですが、道議会の中でも同じような議論をされていくことだと思いますし、これまでの知事の発言を聞いていても、同じような気持ちで進めていくものだと思いますが、ただ4番目の大間原発の建設中止を求めること、というところなんですが、何かあったときには北海道にも危険がある。可能性があるということで、他県のものに対して入っていると思うんですが、これは7号のほうで全体の14基の計画を見直すということが入っておりますので、ここについてはあえて北海道知事に求めることなのかな、という疑問を感じているところです。意見は以上です。

- 委員長（増田武夫） 東口議員。

- 委員（東口隆弘） 原発依存をしないでいく、という意見は大方僕も賛成します。ですが、30%くらい原発の電力依存であるという現状をいきなりゼロに持ってってしまうことは、どうなのか。その後の今後のことについても、太陽光、太陽熱とかその他色々なエネルギーを利用し

ていこうという話ですが、それらについても順序をもった移行をしていくようにしていただきたいと思っております。以上です。

- 委員長（増田武夫） ほかにございませんか。乾委員。
- 委員（乾邦廣） 私も概ねこの陳情書を理解しているところであります。今回の大震災において福島第一原発の、想定外の事故といえますか、発生した災害でありますけれど、政府、東電は想定外で済まそうとしておりますけれども、こういう危険な建物は想定内で、絶対にああいう事故を起こしてはならないだろうと、私は思っております。原子力発電所の危険、完全に対策を立てるように、私も願うところでありますし、それに代わる自然エネルギーの利用は私も賛成でありますけれども、先ほど前川委員が言われたとおり、また東口さんが言われたとおりですね、原子力発電を否定すると、自然エネルギー、火力発電所で日本国内の電気を可能な限り賄えるのかといいますと、今のところそういう確信たるものはないと、お聞きしておりますので、そこらへんで安全対策は万全にさせていただきたいということと、自然エネルギーを活用するということは私は賛成であります。概ね、私はこの陳情書は理解しておりますけれども、ただやはり大間原発の建設中止を求めることについては、若干引っかかるかなと思っております。
- 委員長（増田武夫） 斉藤委員。
- 委員（斉藤喜志雄） 私も概ね賛成でいいだろうな、と思っておりますが、大間の分ですね。想定外という、今回のを教訓にして想定外を想定した危機管理を見直すことが、しっかり行うことがまず条件になるな、これ他県のことだからそのところで、やめなさいというのはいかかなものかという気がしないでもないけれど、知事として被害、何か起きたとき必ず受けますよね、被害を受けるということははっきりしている、そういうときに今回の教訓に学びなさいということ、しっかり訴えていく必要があると思っているんですよ。だから、想定外を想定した危機管理が、今私たちに求められている。そういう意味でいうと、安全対策を限りなく、民間企業でやっているとしても、営利追求みたいなものが優先して、できるだけコストを押えようと思うかもしれないけれど、それが子々孫々禍根を残すということから、くどいようですが、安全対策の部分でしっかり求めていくという観点で、是非、知事も発言して欲しい。ま、発言はしているようですけど、見ていると。だけれども、是非ともそういうところに力点をおいた、取り組みも進めて欲しいな、そういうふうに思っています。やめれば一番いいのだけれど、ちょっと僭越なところもあるのかな、という気もしないでもないで、精神としては止めて欲しいなという思いはありますけれども、進めるとしても今いったような形で、是非知事も努力をして欲しいな、とこんなふうに思っています。
- 委員長（増田武夫） ちょっと、ひととおりの意見がでたところで、若干休憩をしたいと思います。（暫時休憩）
- 委員長（増田武夫） 休憩をときます。今、委員さんの方から陳情項目の4について、削除のほうがいよいでないか、という意見が二人から出されました。ちょっと陳情者と相談いたしまして、取り扱いをこの次の協議まで延ばしたいと思っております。それでは、陳情第6号については継続して審査していくという、取り扱いでよろしいですか。（異議なしの声あり。）
- 委員長（増田武夫） それでは、そのようにいたします。次に陳情第7号、原子力発電依存から自然エネルギー活用への計画的転換を求める意見書の提出を求める陳情書を議題といたします。委員の皆さんからご意見あればお聞きします。谷口委員。

- 委員（谷口和弥） 先ほどの6号にも関わってきますけれど、原発の問題は大変な問題であります。この陳情者の願意に応えたいという思いでいっぱいあります。以上です。
- 委員長（増田武夫） ほかにございませんか。よろしいですか。それではないようですので、陳情第7号に対するご意見は終了いたします。次に討論に入りますけれど、陳情に反対する討論はございますか。賛成する討論はありませんか。それでは討論が無いようですので討論を、終わりたいと思います。それでは、陳情第7号、原子力発電依存から自然エネルギー活用への計画的転換を求める意見書の提出を求める陳情書について、このとおり採択するということがよろしいでしょうか。
(異議なしの声、多数あり。)
- 委員長（増田武夫） それでは、全会一致で採択されました。先ほどの陳情第6号を継続審査といたしましたけれど、会期中にもう一度審査したいと思いますけれど、いつがよろしいでしょうか。休憩いたします。
(暫時休憩。)
- 委員長（増田武夫） それでは休憩を解いて再開いたします。次の委員会は16日の本会議終了後に行いたいと思います。

※このあと、道外研修について打ち合わせを行い10月中旬以降に実施することとし、内容等については各委員の意見を聞きながら、正副委員長で7月中には決めていく方向とした。

※所管事務については、テクノーカ視察、作況調査を行うことし、時期については正副委員長に一任した。

(15:23 閉会)